



令和5年度
新たな地域コミュニティ推進大会

開催報告書

令和6年2月

市長公室 地域コミュニティ推進課

目次

1	開催概要	4
2	次第	5
3	発表内容	6
(1)	第1部 若者や女性のホンネ令和5年度地域づくりアンケート調査結果報告	6
(2)	第2部 新たな地域コミュニティの推進に向けた取り組み	7
①	新たな地域コミュニティ推進事業について	7
②	市内の活動事例の発表	8
■	五箇地区区長協議会（話し合い、人材発掘）	8
■	湊地区自治会、神野地区自治会（若者グループの活性化）	9
■	野間連合区（地域外の協力者との連携、地域版ふるさと納税の活用）	10
(3)	第3部 「労働者協同組合による持続可能な地域づくり」	11
4	参加者アンケート集計結果（回答数：133）	12
	参考資料_当日写真	18
	参考資料_開催チラシ	22



1 開催概要

(1) 趣旨

新たな地域コミュニティ（以下「新コミュ」という。）が本格稼働するターゲットイヤー令和7年度まで残すところ1年となることを踏まえ、持続可能な地域づくりに向けた機運醸成を加速させることを目的に開催するもの。

また、新コミュのモデル地域の取り組みをまとめた広報別冊「新コミュのススメ」の発行に合わせて事例紹介を行うもの。

(2) 日時

令和6年2月24日（土）13時30分から16時10分まで

(3) 会場

京丹後市峰山総合福祉センターコミュニティホール（京丹後市峰山町杉谷691番地）

(4) 参加者

260人

(5) 共催

京丹後市、京丹後市区長連絡協議会

2 次第

- (1) 開会あいさつ（京丹後市長 中山 泰）
- (2) 第1部 若者や女性のホンネ～令和5年度地域づくりアンケート調査の結果報告
 - ・ 事業概要説明（京丹後市区長連絡協議会 会長 川口 勝彦）
 - ・ 結果報告（特定非営利活動法人みんなの集落研究所 三村 雅彦）
- (3) 第2部 新たな地域コミュニティの推進に向けた取り組み
 - ① 「はじめの一歩の踏み出し方」
五箇地区区長協議会（横山 文明、井上 高司、村上 彩、中島峰山市民局長）
 - ② 「若者グループの活性化」
神野地区自治会（森口 博道、余根田 沙織）
湊地区自治会（榎本 和彦、岡野 真奈美）
 - ③ 「地域外の協力者との連携、地域版ふるさと納税の活用」
野間連合区（三本 正樹、三本 大介、山本 将）
- (4) 第3部 「労働者協同組合による持続可能な地域づくり」
厚生労働省雇用環境・均等局勤労者生活課労働者協同組合業務室
室長 水野 嘉郎
- (5) 記念撮影
- (6) 閉会あいさつ（京丹後市区長連絡協議会長 副会長 柴田 隆行）

3 発表内容

(1) 第1部 若者や女性のホンネ～令和5年度地域づくりアンケート調査の結果報告

① 令和5年度地域づくりアンケート調査の結果概要報告

令和5年度地域づくりアンケート調査の実施者である京丹後市区長連絡協議会の川口会長が調査の趣旨を説明しました。このアンケート調査は、持続可能な地域づくりを目指す中で、特に若者や女性が地域活動についてどう感じているかを明らかにすることを目的に京丹後市民を対象に行ったもので、市民579人から回答があり、そのうち45%が50歳未満の方でした。

川口会長は「地域を担う世代の方からも多くの回答をいただいた。皆様と一緒にアンケート結果の概要を共有し、今後の地域づくりのきっかけにしていきたい」と述べました。



京丹後市区長連絡協議会川口会長（地域づくりアンケート調査の趣旨説明）

② 令和5年度地域づくりアンケート調査の結果概要報告

特定非営利活動法人みんなの集落研究所の三村氏から、アンケート調査の分析結果について報告がありました。三村氏は「地域活動の役員を依頼された際、男性は責任感を持って引き受けると回答した方の割合が高い一方で、女性（及び年齢別にみたときに若年層）は属性や関心のある活動であれば引き受けると回答した方の割合が高いなど、男女で受け

取り方に違いがある」と説明されました。

他にも子育て層は子供と一緒に参加できる活動であれば参加しやすいと回答していること、会議や活動の欠席など参加できない場合も含めて関わりやすい雰囲気が大切であること、連絡方法はSNSを希望される方が多いと報告がありました。

最後に、岡山県内で、組織の運営に部会方式を採用し、会議に参加し発言しやすい雰囲気を作っている地域の事例、連絡手段として有効なSNSの利用方法に関する講習会を開催された地域の事例などを紹介されました。



特定非営利活動法人みんなの集落研究所 三村氏

(2) 第2部 新たな地域コミュニティの推進に向けた取り組み

① 新たな地域コミュニティ推進事業について

新たな地域コミュニティ推進事業の進捗について、地域コミュニティ推進課から説明を行いました。モデル地域の取り組みをまとめたスライドショー（3分弱）を投影した後、令和3年度の6地域から令和5年度の22地域と16地域増えており、取り組みの輪が広がっていること、新コミュを進める上での支援制度、また協同労働やふるさと納税の活用について説明しました。

② 市内の活動事例の発表

■五箇地区区長協議会（話し合い、人材発掘）

テーマ：はじめの一步の踏み出し方

報告者：五箇地区区長協議会（横山 文明、井上 高司）、村上 彩（地域マネージャー）、
中島峰山市民局長

五箇地区区長協議会は、「はじめの一步」をテーマに、新コミュの取組に至った経過やその思いについて報告しました。

五箇地域では、令和3年度から新コミュの検討をスタートし、令和5年度から本格的に取り組みを開始しました。令和5年度は、若者や女性など多様な住民の声を聴こうと意見交換会を3回開催し、五箇地域が目指す姿（ビジョン）として3本柱を立てられたことが大きな成果だった、また意見交換会をきっかけに新しい人材とのつながりができ、結果的に村上氏に地域マネージャーに着任していただくことができたことと報告しました。

意見交換会では「区長は聞き役に徹する」というルールを決め、参加者が話しやすい雰囲気づくりに徹したとのこと。また、五箇地域で新コミュのスタートをきることができたポイントとして「地域の未来を考えた区長の強い思いがあったこと、何度も話し合いを重ねることで区同士の信頼関係が構築できたこと、若者や女性など多様な人を巻き込む中で共感できる仲間が増えてきたこと」を挙げてられていました。



左から、横山区長、井上区長、村上地域マネージャー、中島市民局長)

■湊地区自治会、神野地区自治会（若者グループの活性化）

テーマ：若者グループの活性化

報告者：神野地区自治会（森口 博道、余根田 沙織）、湊地区自治会（榎本 和彦、岡野 真奈美）

神野地区自治会と湊地区自治会は、若者グループの活性化をテーマに報告しました。

神野地区自治会は、令和4年度に実施した住民アンケートで「気軽に集える場があれば」、「子育て層の取り組み」、「みんなで作る畑」という声が出たことをきっかけに、「かぶと山キッズサークル」を立ち上げ、親子での野菜作り体験や収穫体験を実施していると報告しました。また、湊地区自治会は、若手を中心となり「ぎょそん戦隊」を立ち上げ、子どもが楽しみながら集まれる縁日「ぎょそん戦隊ピチピチ祭り」を実施したこと、子どもたち自身がやってみたいことを自分たちで考えて実現していく企画チーム「みなとっこ会社」が動き出していると報告しました。

二つの地域からは、まず小さく始めること、動きながら共感できる仲間を増やし活動を広げていくこと、自治会と十分に話し合い連携することが大切だという点が共通して述べられていました。また、自治会長からは「若者（グループ）のやる気を大きな懐で応援していきたい」という意見も聞かれました。



左から神野地区自治会の森口会長、余根田氏、湊地区自治会の岡野氏、榎本会長

■野間連合区（地域外の協力者との連携、地域版ふるさと納税の活用）

テーマ：地域外の協力者との連携、地域版ふるさと納税の活用

報告者：野間連合区（三本 正樹）、株式会社リバイタライズジャパン三本 大介、山本 将

野間連合区は、地域外の協力者との連携、地域版ふるさと納税の活用をテーマに報告しました。

野間連合区では、野間地域出身の三本氏が立ち上げた株式会社リバイタライズジャパンが地域づくりに参画し、野間連合区と連携しながら「野間の保健室」、「ブランド米の開発（野間-NOMA）」に取り組んでいると報告がありました。リバイタライズジャパン三本氏の友人で医療関係者の山本氏（京丹後市出身）は「地元に関わり貢献したいと思っている方は多い」とされ、そうした思いを持つ方が関われる仕組みが大切と述べられていました。

こうした活動に対して三本区長は、「地元の方々は初めは少し理解しきれない部分もあったが、今はみんな喜んでいる。次はいつあるのかといった声も聴かれる」と述べられました。また、野間地域では地域版ふるさと納税を活用しており、高齢者の移動支援に必要な資金を募っていると報告がありました。



左から三本野間連合区長、株式会社リバイタライズ三本氏、野間の保健室事業の協力者の山本氏

(3) 第3部 「労働者協同組合による持続可能な地域づくり」

厚生労働省雇用環境・均等局勤労者生活課労働者協同組合業務室 室長 水野 嘉郎 氏

厚生労働省の水野氏が労働者協同組合を活用した持続可能な地域づくりについて報告しました。

水野氏は、令和6年2月24日現在で74法人（資料では令和6年2月19日時点で73法人）が設立されているとし、その中でも「移住者や地元出身者による地域の困りごと解決を行う東白川村労働者協同組合（岐阜県加茂郡白川村）や小規模多機能自治に基づき地域自主組織から事業部分を切り出して設立された労働者協同組合うんなん（島根県雲南市）の事例は、京丹後市の地域づくりに参考になる」と指摘しました。

最後に、労働者協同組合の可能性として、地域の課題解決に寄与すること、地域コミュニティの活性化につながるがあると述べられました。



厚生労働省雇用環境・均等局勤労者生活課労働者協同組合業務室 水野氏

4 参加者アンケート集計結果（回答数：133）

参加者 133 人からアンケート調査に回答をいただきました。アンケートでは、各パートについて「参考になった」、「少し参考になった」、「あまり参考にならなかった」、「参考にならなかった」の 4 段階で評価し選択していただくとともに、自由記述形式で意見を求めました。

第 1 部は「参考になった」が 55.0%、「少し参考になった」が 38.8%と合計で 93.8%の方がなんらかの参考になったと回答しました。第 2 部は、各地域の発表について「参考になった」がいずれも 60%、「少し参考になった」がいずれも 30%を越え、全体の 90%を超える方がなんらかの参考になったと回答しました。第 3 部は「参考になった」が 47.2%、「少し参考になった」が 43.4%と全体の 90%がなんらかの参考になったと回答しました。

自由記述では、「各地域の特色ある新コミュの取り組みを知ることができてとてもよかった」、「若い人や子どもたちが企画し地域を盛り上げることも地域活性化の姿」、「今活動している団体をまとめ新コミュを進めていきたい」、「元気をもらえた」、「行動あるのみ」など、地域づくりの機運の高まりを感じる意見が多数聞かれました。

問 1. 第 1 部 地域づくりアンケート調査の結果概要報告について

参考になった	少し参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった
71(55.0%)	50(38.8%)	8(6.2%)	0(0%)

問 2. 第 2 部 市内の各地の事例発表について

① 五箇地区区長協議会（話し合い、人材発掘）

参考になった	少し参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった
75(60.0%)	44(35.2%)	6(4.8%)	0(0%)

② 湊地区自治会、神野地区自治会（若者グループの活性化）

参考になった	少し参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった
83(65.9%)	41(32.5%)	2(1.6%)	0(0%)

③ 野間連合区（地域外の協力者との連携、地域版ふるさと納税）

参考になった	少し参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった
79(62.7%)	38(30.2%)	9(7.1%)	0(0%)

問 3. 第 3 部 労働者協同組合による持続可能な地域づくりについて

参考になった	少し参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった
50(47.2%)	46(43.4%)	10(9.4%)	0(0%)

問4. 全体を通して思ったこと、感じたこと等がありましたら自由に記述してください

- ・ 第1部、三村様に説明して頂きましたが、資料にはなかった話し合いのルール資料を頂ければありがたいです。第2部、改めて話し合いの重要性を感じました。野間の保健室など、先進地を参考にしていきます。
- ・ 地域づくりは困難が多いが、根気強く取組をする必要があるように思った。
- ・ 何をするのも、人だと思えます。人的支援が必要だと思えます。
- ・ 先行している地域の苦労話が聞けて、大変参考になりました。地域ごとの特性があるので、子育てや女性の参加など共通の課題のほか固有の課題を掘り起しながら多くの声を集約していく必要性を痛感しました。
- ・ やりたい事をやっていく。アンケートできっかけをつかんで動いておられ、素晴らしいです。公民館として、今までやってきたことはどうなりますか。研修会などはどうされるのでしょうか。とても気になりました。大切な事をぜひ残し、継続していきたいと考えます。
- ・ 福祉分野で働いているので、ヘルパー不足、子育て世代の就労支援は課題と感じている。それらのことに活かしていけたらとも思う。地域のことが楽しんで行っていけたらと思う。
- ・ 神野地区のキッズサークルに興味をもちました。何かの目的のために集まるのではなく、親になって子どもたちの為に何が出来るだろうと、悩み等共有しながら、自分たちでやっていこうとしている姿勢、一度お話を聞かせて頂きたく思いました。少子化の中、子どもたちの為に、かんばれお母さん！エールをおくります。知らない事がたくさんあり、地域の再発見をさせて頂きました。
- ・ 「地域づくりは人だ!」ということが一番良くわかりました。ありがとうございました。
- ・ 皆さんよく考えておられるなと感じました。
- ・ 区長の役員交替がますますむずかしくなるのではと心配になります。
- ・ 男ばかりの参加が多いが、女性も子供も参加できる会が増えるような取組が増えれば良いと思う。
- ・ 若い世代・隣の区は、よい新コミュができていてうらやましく思いました。自分の地域に大きな課題を感じますが、今の自分一人の思いだけではダメで、どうにもならず、あきらめています。小さな力でも集めて形にする何かが必要ですね。なんとかしたいし、ならないでしょうか。私も思いました。地域をなんとかせんなん！という強い思いでないと、歩み出せない。「せんなんのや〜」では、なかなか進まない。「なんとかせんなん！したい!」をどうやって引き出すか、事例発表であったやり方が自分の地域でもできたらな。
- ・ 地域版ふるさと紹税、労働者協同組合について興味がある。
- ・ 区長会が中心に動き始めることの重要性→事務局の必要性。突発的にイベント実行委員会ができて、支援が受けにくい。新コミュが立ち上がり、認定し、支援が得られる

体制が必要。今活動している団体をまとめ進めて行きたい。6年度中にはぜひ達成したい。

- ・ 事例発表は、わかりやすく良かった。
- ・ 具体例を聞くと、我が地域ではどのようにするかヒントがいただける場になった。子どもたち、若者の参加につながるヒントになった。紙ベースを大事にしながら SNS の活用を図っていく必要がある。理解を深める中から、人材の発掘、働きかけを強めたい。若い方が生き生きと活動されているので、今回はこのような活動ぶりを発表してほしい。
- ・ 2/22 全戸配布の「新コミュのススメ」冊子の内容を具体的に発表していただいてよくわかった。
- ・ 広域の取組みがやっと市内で進んできたなと感じました！これが組織としてまとまるのか、リーダーの力量が試されるなど。労働者協同組合のトップは、どうして選任するのか？責任は誰がとるのか？法人税はどうなるのか？申告はするのか？
- ・ 1部のデータの見せ方があまりよくないと思った。何の為につかうデータなのか、どのようにつかうのか、また、データのとり方に偏りはなかったのか、1%しかとれなかったのはなぜなのかなど気になった。データ収集の説明がほしかった。地域事例は参考になった。若手の導入のしかたなど興味深かった。「新コミュ」が自由な活動であることが参加することでわかったが、地域住民がどれほど理解しているのか不安になった。
- ・ 野間地区の事例発表、地域外の協力との連携はたいへん参考になりました。野間以外、丹後全体の米価の価格をあげていただくように協力してほしいです。このままでしたら丹後の農家はつぶれてしまいます。
- ・ 色々なかたちの新コミュがあるのだと改めて、理解できた。
- ・ コミュニティ活動だけでなく区の運営にも、参考になる考えであったり、アイデアがあり、たいへん参考になりました。
- ・ 第1部アンケート調査の説明、第2部の4地域コミュニティ活動事例は参考になりました。地域住民の考え方、意見や要望、困り事などを聞いていくことから始まるのだなと思いましたが、その中でそういった取り組みをしていくリーダー的な存在をだれがするのか？又、事務的なこととしていただける人の人材もさがす必要がでてきます。地域でのさまざまな課題を解決するのは非常にむずかしいことです。区長がする？公民館の役員がする？どう進めていったよいかかわからない。ですが、まずは何かはじめることですか？まずはできることから始めていくことですか？
- ・ 第1部の手元の資料になかに部分(話し合いのマナールール)のコピーが欲しいと思いました。ひとくちに「新コミュ」と言っても、子供にターゲットをしばったり、企業で専門的に頼ったり、ふるさと納税を活用したり、様々な具体的なアプローチを聞くことができ、本当に今後のためになりました。丹後に住んでいなくても丹後を支援しておられる。それが可能であるということに感心しました。今までボランティアに頼ってい

た地域の行事も仕事とすることで、地域住民がもっと利便性良く生活していけることがわかりました。

- ・ 新コミュの取組は、行政として取り組む問題である。地域活性化の責任は行政にある。地域は区の仕事と新コミュの仕事で、区長の仕事は増えるのみ。市は区に仕事を降ろさずに、もっと引っ張ってほしい。「野間の保健空」「米の販売」は市の仕事である。
- ・ 1部のアンケートで収集された数(とくに若年層)が少ないにもかかわらず、かなりの割合と話されていたのが違和感があった。もっと意味のあるアンケート、ちゃんとした情報を伝えることをしてほしい。
- ・ 地域で事業を立ち上げたが、会社ではなく、協同組合の可能性があったなと思った。湊の事例はとてもポジティブな印象を受けた。たくさんの人が参加していてよかったが、半数は女性が来るような気運になったらいいなと思いました。おつかれさまでした。
- ・ みんな頑張っているな〜!と感心しました。会議で「ようけしゃべったらあかん」を改めて思いました。
- ・ 若者の力が必要。
- ・ アンケートが資料に添付されていましたが、筆記用具がなかったです。アンケートが付いてない人もいました。
- ・ アンケートの内容、各地の取組を参考に今後の活動に生かしていきたい。このような会議、特に取組の発表のあるような会議では、あたりまえのように会議の予定時間を超過している。せっかく良い会議であったとしても残念です。もっと余裕をもった時間配分とするか、しっかりとした司会進行をお願いしたい。今後の参加を考えてしまう。
- ・ 地域それぞれの強みがあり、それに合った対応手段の考え方を参考にしたい。
- ・ 区長の推進のやり方で地域が変わる様な事が良い。
- ・ 行動あるのみ。
- ・ それぞれの地域の特徴ある取組発表があり参考になりました。新コミュの取組を通じて、がんばっておられることがわかった。特に野間の取組は、外からの支援があり、ふるさと納税と合わせて今後力を入れることを感じました。
- ・ 自分たちの地域でも、できることにつながるヒントを頂くことができました。ありがとうございました。
- ・ 3部は農事部の今後の活動の参考にできる。
- ・ 新コミュ推進のゴールは何を目指す?地域の違いはあると思うがそれぞれのゴールを考えてみよう。ただ何からやればいいのか?
- ・ 今後の地域コミュニティに危機感を持っているので参考になった。新コミュの事は全然わからないので、これから勉強です。何をどうすればいいのか?労働者協同組合は関心はあるが。
- ・ 一度初心に帰って地域の自立が必要と思った。出来る者が、出る事をやっていく必要がある。

- ・ 今後新コミュを進め、考えていく上で、大変有意義な内容でした。
- ・ 神野地区・湊地区の取組の活動のポイントは、よそ者、若者の、女性の力といます。この2地区はそれを満足していた。
- ・ 三者を通しての新コミュの進め方がすごく参考になったね。労働者協同組合の説明は新コミュと一緒に進めるには難がありますね。多分毎年同じ説明になると思うので、説明より、新コミュと同じく実際の事例を何例か紹介いただいたらどうか。
- ・ 各地区すばらしい取り組みをされており、勇気付けられました。しかしながら、成功の裏には、失敗例もあると思います。そういった場合に、何が足りなく何が必要だったのか等、また、どういった行動が必要だったのか等の話もあれば、成功に向かっての行動がとれるのではないか。
- ・ 第2部の各地の取り組みは、市職員が全体の流れや進行までうまく企画できており、聞き手側もよく理解できた。地区の発表者も、発言しやすかったのでは。野間の米のネーミングは、「ガラシャ」を入れて「野間ガラシャ米」としては？
- ・ とても参考になりました。自分の地域でも取り入れたいと思う事例もありました。ありがとうございました！
- ・ 第2部の質問時間がほしかった。第3部の法人化する事へのハードルが高い。
- ・ 少子高齢化が進み、つながりがなくなっており何かしないといけないと思った。
- ・ ②③の取組について、すごいなあと思った。まずは人材とサポーターに拍手です。意欲と熱意に圧倒されました。地元でもこのような人がいるんだろうな。良い人材を発掘するには、まずは話すことからですかね。今日は良い話を聞かせてもらえました。参考にさせていただきます。
- ・ 今回参加したのは、地域コミュニティが以前から気になっていたからです。2017年に京丹市久美浜町に移住して、農業をしていますが、いろんな課題はあるけど、具体的に何をしたら良いのだろうか...今後の参考にさせて頂きたいと思いました。「まずやってみよう」「一人では無理でも仲間がいれば」。
- ・ 湊地区の話は大変参考になり、彼女のような女性リーダーの必要性を感じています。
- ・ 資金面で自治区(区民)の負担増なのかどうか。
- ・ 質問などが全くなく、シナリオ通りに進んでいる印象。動画か資料でみせてくれるといいと思った。事業の方向性、資金をもっと早く示してほしかった。
- ・ 事例発表が長く、1パターンで、見直し。
- ・ 足りない人は、まわりから集める。市外からの協力を得る。
- ・ 事例発表の中で、特に湊、神野地区の取組が参考になりました。若者が主体で動ける組織が立ち上がれば、地区としてバックアップする(金を出す、口は出さない)。まずは、そんな自由な意見が出る場が必要と考えました。
- ・ 地域のアンケートを実施する。
- ・ 途中退室の人、質疑応答がなかったのが残念でした。

- ・ 各地域の特色ある新コミュの取組を知ることができてとてもよかったです。特に野間の取組は斬新で、学ぶべきものが多いと思いました。
- ・ 地域によって活かせる資源が違うが、皆の声を聴くことで可能性は広がると感じました。自身の地域活動に参考とさせていただきます。ありがとうございました。

参考資料_当日写真









令和5年度 新たな地域コミュニティ推進事業

新
コ
ミ
ュ

地域情報を発信中！



～持続可能な地域を目指して～

新たな地域コミュニティ 推進大会

令和6年2月24日(土) 13:30～16:00
峰山総合福祉センターコミュニティホール(京丹後市峰山町杉谷691番地)
※駐車場は峰山庁舎前をご利用ください。

京丹後市野(古)代(新)

【第1部】若者や女性のホンネ ～令和5年度地域づくりアンケート調査の結果報告～

- 特定非営利活動法人みんなの集落研究所
【特定非営利活動法人みんなの集落研究所】主に、人口減少や少子高齢化等に起因する課題をもつ岡山県内の地域・集落に対して、その維持と発展に関する調査研究及び提言などに関する事業を行い、社会全体の利益の増進に寄与することを目的に活動されています。令和4年度本市区長全員アンケート調査の分析を実施。

【第2部】新たな地域コミュニティの推進に向けた取り組み ～活動事例の発表～

- 五箇地区区長協議会（話し合い、人材発掘）
- 湊地区自治会、神野地区自治会（若者グループの活性化）
- 野間連合区（地域外の協力者との連携、地域版ふるさと納税の活用）

【第3部】労働者協同組合による持続可能な地域づくり ～全国の事例紹介～

- 厚生労働省雇用環境・均等局勤労者生活課労働者協同組合業務室
室長 水野 嘉郎 氏

【主催】京丹後市・京丹後市区長連絡協議会
【問合せ】京丹後市 地域コミュニティ推進課 TEL0772-69-1050

申込 不要 参加費 無料

令和5年度 新たな地域コミュニティ モデル地域

※写真は取り組みの一部です

<p>峰山町東地域</p> <p>峰山東地区</p>  <p>地区の将来を考える会</p>	<p>峰山町五箇地域</p> <p>五箇地区 区長連絡協議会</p>  <p>五箇ワークショップ</p>	<p>網野町郷地域</p> <p>郷シンコミ協議会</p>  <p>未来への検討会</p>	<p>弥栄町溝谷地域</p> <p>いやさか溝谷 地域づくり協議会</p>  <p>移住者や女性との意見交換会</p>
<p>丹後町間人地域</p> <p>間人区</p>  <p>PTAと連携した地域イベント</p>	<p>丹後町宇川地域</p> <p>宇川連携協議会</p>  <p>宇川金曜市</p>	<p>久美浜町田村地域</p> <p>田村地区自治振興会</p>  <p>先遣地視察研修</p>	<p>網野町島津地域</p> <p>しましまベース</p>  <p>島津天候場</p>
<p>弥栄町鳥取地域</p> <p>いやさか鳥取校区 地域づくり協議会</p>  <p>広域で連携した防災訓練</p>	<p>久美浜町神野地域</p> <p>神野地区自治会</p>  <p>稲庭マルシェ</p>	<p>久美浜町川上地域</p> <p>川上地区自治振興会</p>  <p>まちづくり作戦会議</p>	<p>久美浜町湊地域</p> <p>湊地区自治会</p>  <p>ごきよう会「ピンチシアター」</p>
<p>丹後町豊栄地域</p> <p>豊栄まちづくり協議会</p>  <p>豊栄フェスティバル</p>	<p>弥栄町吉野地域</p> <p>いやさか吉野 地域づくり協議会</p>  <p>どんど焼き</p>	<p>久美浜町一区地域</p> <p>久美浜一區自治会</p>  <p>みんなの居場所づくり</p>	<p>久美浜町二区地域</p> <p>久美浜二区振興会</p>  <p>コミュニティビジネス事業</p>
<p>久美浜町佐濃地域</p> <p>佐濃自治会</p>  <p>子どもとのヤマメ放流事業</p>	<p>弥栄町野間地域</p> <p>野間連合区</p>  <p>多世代交流・野間の保健室</p>	<p>新たな地域コミュニティ推進事業について詳しくは、市ホームページをご覧ください。</p>  <p>検索 京丹後市 新コミュ</p>	<p>CHECK 地域版ふるさと納税</p> <p>京丹後市では、地域プロジェクトに必要な資金をふるさと納税を活用して募る「地域版ふるさと納税」に取り組んでいます。</p> <p>検索 地域版ふるさと納税</p>

【新たな地域コミュニティ】人口減少や高齢化により行政区の機能低下が危惧され、このままでは地域が立ち行かなくなるのではないかと危機感を抱く中、京丹後市では、地域が行政区を越えた旧村や地区公民館など広域の範囲で「新たな地域コミュニティ」を形成し、若者や女性など多彩な人材の参画を促進しながら、地域が主体的に行う課題解決や地域づくり、また協同労働（労働者協同組合の設立）や地域版ふるさと納税などを用いた取り組みを支援しています。

